

今回は、脱炭素化の流れが加速していますので「脱炭素社会とは何か」について概要を紹介します。また、部材の調達につきましても入手困難な状況が続いているので、その後の情報をお伝えします。

脱炭素化社会について

脱炭素社会とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを実現する社会を言います。“実質ゼロ”とは、温室効果ガスの排出を完全に無くすということではなく、排出される量と森林などに吸収される量が同じであり、バランスが取れている状態になることを目指しています。このバランスがとれている状態を「カーボンニュートラル」と言います。

尚、温室効果ガスには、二酸化炭素(CO2)、メタン、一酸化二窒素、代替フロンなどの7種類のがスが定められています。

温室効果ガスの排出を防ぐためには、石油や石炭などの化石燃料から脱却すること、太陽光、太陽熱、水力、風力、地熱などの再生可能エネルギーを利用することが必要です。このエネルギーの特徴は、「枯渇しない」「どこにも存在する」「CO2を排出しない」の三点ですが、以下のエネルギーも注目されています。

【水素】

水素化が今後のエネルギー戦略の柱になると言われており、その特徴は様々な資源から作ることができることとエネルギーとして利用してもCO2が排出されないことです。身近なところで期待されている水素の利用先には、燃料電池自動車(FCV)やバス(FCバス)が挙げられます。

【洋上風力発電】

陸上風力発電は適地が限定されるため、海域を利用した洋上風力発電が新たに注目されています。日本の特徴である長い海岸線や広域な海域などを活かした洋上風力発電が有望視されています。

【バイオマス発電】

動植物などから生まれた生物資源の総称で、これを利用したのが「バイオマス発電」。直接燃焼やガス化して発電を行います。

一方で排出量をゼロにすることが難しい分野も多くあり、脱炭素化社会に向けた「つなぎ」の技術として注目されているのが、CO2の回収・貯蓄技術(CCS)です。排出されたCO2を分離・回収して地下などにため込むことで大気への放出を抑え込む技術です。

地球温暖化はどこかの国だけが取り組めば解決するものではなく、国内においても政府や企業だけが対策を行えば改善するものでもありません。社会全体にその原因があり、私たちの生活のなかにも取り組むべきことはあります。例えば、・エネルギーの消費量を抑える(省エネ)・CO2排出の少ない交通機関の利用・ハイブリッド車や電気自動車などのエコカーを選ぶ・再生可能エネルギーを供給する電力会社へ切り替えるなどです。

尚、弊社は CO2排出量削減(エネルギー消費量削減)を目標に掲げ SDGsとエコアクション21活動に取り組んでいます。

部品調達情報

～マレーシアのロックダウンによる各メーカーの状況～

商社様情報によりますと、マレーシアでコロナウィルスの感染が急拡大して全土で企業の経済活動など厳しく制限された影響もあり、部材の長納期化が続いているようです。(ロックダウンは6月28日まで延長されました。)

メーカー	部品	対応状況(6月7日現在)
TDKラムダ	電源	稼働率60%で生産は継続中ですが、生産量の減少と部材の入手困難の影響で長納期化となっています
セイコーインスツル	水晶	稼働率60%で生産は継続中ですが、マレーシア製品の回答納期は見直しが入ります(VT-200、SSP-T7シリーズ)
セイコーエプソン	水晶	生産は継続していますが、稼働率は50～60%程度になっておりマレーシア製品の回答納期には見直しが入ります
	半導体	ロックダウンの影響はありませんが、需要増によりリードタイムが長納期化しており現状12ヵ月以上を要しています
ABLIC	半導体	ロックダウンの影響はありませんが、需要増によりリードタイムが長納期化しており現状6～8ヵ月を要しています
アナログデバイスズ	半導体	工場は稼働していますが、ロックダウンに伴い40%の在宅指示が出た影響で 3～15ヵ月と長納期が継続しています
MOLEX	コネクタ	マレーシア工場及び協力工場は100%の稼働ができています
京セラ	コネクタ	ロックダウンの影響はありませんが、材料入手の更なる悪化により、現状5ヵ月程度を要しています

長納期化、価格アップはしばらく続くと予測しておりますので情報収集を強化して対応して参ります。